

### 新聞紙上にみる環境キーワードの変遷

OKABE, Masashi / 岡部, 雅史

---

(出版者 / Publisher)

法政大学経済学部学会

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

経済志林 / 経済志林

(巻 / Volume)

76

(号 / Number)

2

(開始ページ / Start Page)

51

(終了ページ / End Page)

60

(発行年 / Year)

2008-09-25

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00003372>

# 新聞紙上にみる環境キーワードの変遷

岡 部 雅 史

## はじめに

本稿は、2008年6月14日に開催された経済学部同窓会総会において行われた講演を誌面にて記録するために大幅にダイジェストし、原稿という形に直したものである（本講演自身はそもそも論文として誌面発表する事を想定していないテーマであった）故、論文としてのフォーマットに欠けるが、ご容赦いただきたい。

本講演では、同窓会会員向けのテーマとして上記に挙げたように「新聞紙上にみる環境キーワードの変遷」というものとした。内容は、環境という語の定義から掘り起こし、新聞紙上における検索方法の紹介、過去二十余年にわたる新聞紙上年間掲載回数の変遷と他の語との比較、最後に近年急速に掲載回数が増加し始めている新しい環境関連の語をトピックとして紹介し、今後10年間ほどの環境トレンドの見通しと方向性を占った。

以下、同窓会での本講演の概要を述べる。

## 講演概要

### 1- 環境という語の指し示すもの

「環境」という語はさほど古い言葉ではなく、本邦において明治時代以降に形成されたとする説が有力であり、明治以前は「環象」という語で表意されてきたとも伝えられている。現在の中国語圏で用いられている環境という語は日本から逆輸入されたともいわれている。

環境という語は、読んで字のごとく「自分の周りを取り巻く環（まるい）境目」という意味を示しており、「自己を取り巻き、自己に影響を与える要素の総称」という定義そのものを体現している。これは本邦のみではなく、英語圏、ドイツ語圏においてそれぞれの言語における環境の語意とも合致する。本邦では上記のように環境という語の示す定義が広範にわたるため、今日では自然環境、環境保護、環境経済、環境経営、社会環境、労働環境、教育環境等々のように要素の対象を絞り込むための接頭辞・接尾辞をつけて表意させる事が多く見受けられるようになってきている。

### 2- 新聞紙上における語の検索方法

各新聞社では1970年代より、記者の記事原稿の入稿が電子化され、それに伴って新聞記事のデータベースも電子化されるようになった。新聞記事が電子化されデータベース化される事によってそれ以前では多大な労力と時間がかかっていた記事検索や単語の検索がほぼ瞬時に為されるようになった。図1は法政大学図書館のホームページに設置されている各新聞社のオンライン検索サービスの一覧窓口を示している。

これらの記事検索サービスは有料であり、法政大学多摩図書館では同時検索可能人数はある程度制限されている。図2は朝日新聞社の記事検索サービス（聞蔵II）を示している。

図 1

新聞		
	<b>聞蔵II</b> (朝日新聞 1945-現在までの記事検索) 2007年12月10日から、1984年以前の紙面イメージをPDFで表示できるように なりました。(推奨環境: Adobe Acrobat Reader 6.0以上)	1945-現在 最大4人、自宅利用可 利用規定
	<b>ヨミダス文書館</b> (読売新聞・THE DAILY YOMIURI)	1986- 最大3人 利用規定
	<b>日経テレコン21</b> (日経4紙) 日本経済新聞の創刊号(1876年12月2日)から1956年12月31日までの記事検 索とPDF表示機能が加わりました。*新聞記事検索の際、「日本経済新聞(明 治から戦後まで)」を検索対象として選択してください。	本誌: 1876-1956, 1975- 他: 1985- 最大10人、自宅利用可 利用規定
	<b>毎日Newsパック</b> (毎日新聞・エコノミスト・MDN) 「過去紙面データベース」が追加され、1872年3月29日から1957年12月30日 の記事検索とPDF表示が可能になりました。 毎日Newsパック<ガイダンス用入口>	1987- 最大2人、自宅利用可 利用規定
	<b>産経新聞ニュース検索サービス</b>	1992- 最大3人 利用規定

図 2



For Librarians

[使い方 ?](#)
[利用規定](#)
[ログアウト -->](#)

朝日新聞1985~ 週刊朝日 AERA
朝日新聞縮刷版 1945~1984
知恵蔵
人物

**→ 検索モード**     シンプル検索     詳細検索

**対象誌紙名**     朝日新聞     アエラ     週刊朝日

**→ キーワード**        検索実行    クリア

            関連キーワード参照

**→ 発行日**     3ヶ月     6ヶ月     1年     全期間

年 月 日

年 月 日

**→ リスト表示**

図3は実際に「環境」という語が2007年1月1日～12月31日までの1年間に朝日新聞の朝夕刊に何回掲載されているかを調べた結果を示している。

ここでは2007年の1年間に環境という語は18889件使用されている事がわかる。

図3



[使い方 ?](#)
[利用規定](#)
[ログアウト -->](#)

朝日新聞1985～週刊朝日 AERA
朝日新聞縮刷版 1945～1984
知恵蔵
人物

検索画面へ戻る

再検索

AND
OR
NOT

\*グリーンで表示された記事は著作権などの関係で本文を表示できません。  
**総件数：18889件 通し番号：1～50**

全選択
全解除
本文表示
▼ 次の50件

No.	発行日	朝夕刊	面名	ページ	文字数	写真図表	関連素材
<input type="checkbox"/> 00001	2007年12月31日	朝刊	2 社会	026	00409文字	あり	
日本のカメ、どこに？ NPO、全国で実態調査へ							
<input type="checkbox"/> 00002	2007年12月31日	朝刊	3 総合	003	02054文字		
(社説) 希望社会への提言：10 仕事も生活も、そして子供も							
<input type="checkbox"/> 00003	2007年12月31日	朝刊	1 総合	001	00622文字		
(天声人語) 大みそかに地球を思う							
<input type="checkbox"/> 00004	2007年12月31日	朝刊	1 総合	001	00706文字	あり	
温室ガス削減 あすから京都議定書の「約束期間」							
<input type="checkbox"/> 00005	2007年12月31日	朝刊	大特集T	011	03385文字	あり	
現場発、エコ楽習 立命館大・金沢工業大・滋賀大・近畿大 進学特集 【大阪】							

また目的とする語の掲載回数ばかりではなく目的語の掲載された新聞記事の個別検索閲覧（図4）も可能であり、実際の記事のPDF書類（図5）も閲覧できる（こちらが通常の使用法だと思われる）。

図4

No.	発行日	朝夕刊	面名	ページ	文字数
00001	2007年12月31日	朝刊	2 社会	026	00409文字

## 日本のカメ、どこに？ NPO、全国で実態調査へ

カメを見つけたら教えてね——。NPO法人のカメネットワークジャパン（小菅康弘代表）は、東邦大地理生態学研究室（千葉県船橋市）と協力して川や池などの淡水に生息する日本固有のカメの全国規模の実態調査を始める。市民や環境保護に取り組んでいるNPOのほかに、農業や漁業関係者にも情報提供を広く呼びかけている。



カメネットワークジャパンによると、ニホンイシガメ=写真=やくサガメ、ニホンスッポンといった日本の淡水性カメは絶滅の危機にある。河川や湖沼の護岸化で越冬や産卵ができなくなったり、捨てられて繁殖した外来種のカメにエサとなる生物を奪われていることなどが理由という。

小菅代表は「ウミガメの場合は、追跡調査のシステムがあり、保護対策に役立っている。淡水性カメもこの調査をきっかけに情報の集約や交換が行われるようになってほしい」と話す。問い合わせや情報は、カメネットワークジャパン（<http://kame.uyu.jp>）へ。

図5

朝日新聞 2007年12月31日 朝刊 26ページ 東京本社

## 日本のカメどこに？ NPO、全国で実態調査へ

カメを見つけたら教え 係者にも情報提供を広く  
てねー。NPO法人の 呼びかけている。  
カメネットワークジャ  
パン（小菅康弘代表）は、  
東邦大地理生態学研究室  
（千葉県船橋市）と協力  
して川や池などの淡水に  
生息する日本固有のカメ  
の全国規模の実態調査を  
始める。市民や環境保護  
に取り組んでいるNPO  
のほかに、農業や漁業関



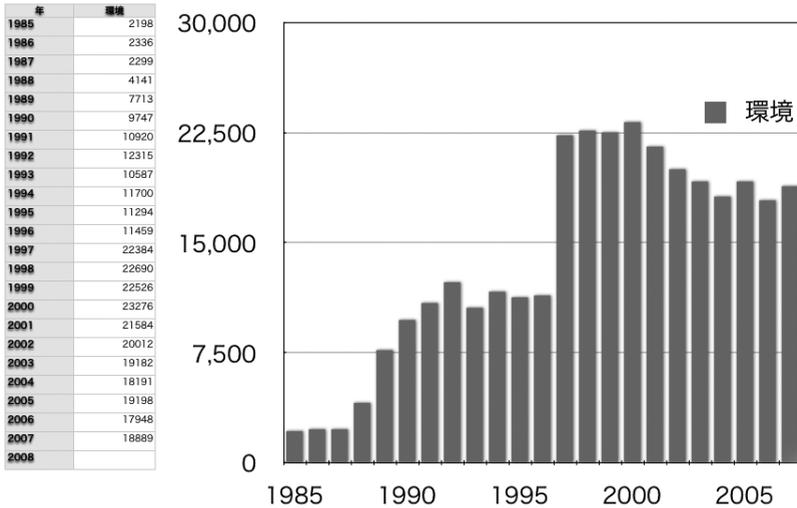
呼びかけている。  
カメネットワークジャ  
パンによると、ニホンイ  
シガメや写真やクサガ  
メ、ニホンスッポンとい  
った日本の淡水性カメは  
絶滅の危機にある。河川  
や湖沼の護岸化で越冬や  
産卵ができなくなった  
り、捨てられて繁殖した  
外来種のカメにエサとな  
る生物を奪われているこ  
となどが理由という。

小菅代表は「ウミガメ  
の場合は、追跡調査のシ  
ステムがあり、保護対策  
に役立っている。淡水性  
カメもこの調査をきっか  
けに情報の集約や交換が  
行われるようになってほ  
しい」と話す。問い合わせ

### 3- 環境という語の年間掲載回数の変遷

環境という語が、前述の調査方法で朝日新聞朝夕刊に年間何回出現するか調べた結果を、掲載回数のテーブルおよび、グラフとして図6に示した（以下図6～図8のグラフにおいては縦軸に年間掲載回数、横軸は年を示している）。

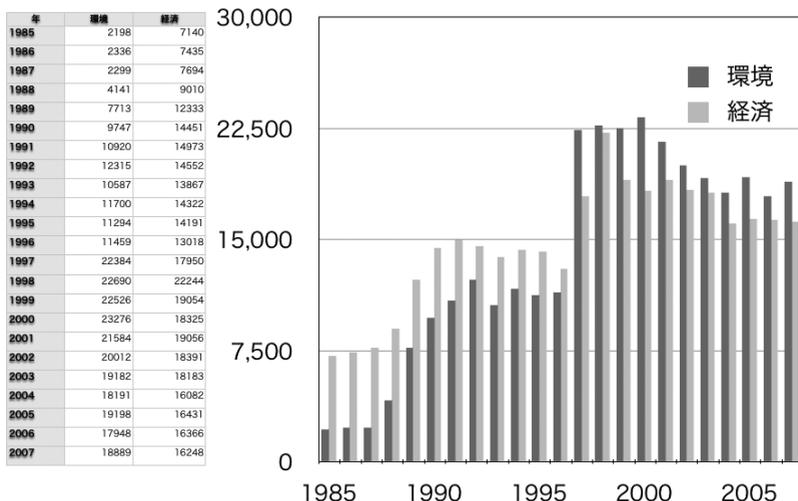
図6



これらの結果から、環境という語の年間掲載回数は1980年代前半までは2千回ほどであったが、80年代後半から出現頻度が増加しはじめ、1991年には年間1万回を超え、1997年以降年間2万回（1日平均55回）を突破し、ピークにおいては2000年に2万3千回（1日に63回！）を超えるに至った。2001年以降出現回数は緩やかに下降しはじめ、昨年2007年の年間出現回数は1万8千回に至っている。

一方、経済という語についても同様に調査を行い、上記（環境）との比較を行った結果、80年代前半までは、環境の3倍ほどの年間7千回あまりで推移し、以降増加し、1989年に1万2千回を超え、失われた10年の不況の際（1991年～2002年）も年間1万4千回ほど出現し、1998年には年間2万2千回を超えピークを示した。以降緩やかに減少に転じ、2007年には1万6千回あまりを示している（図7）。

図7



以上の調査結果は実験研究とは異なり、検索単語の出現回数という単なる現象を数値化してみた側面が強いため、安易な解釈は控えるべきであるが、ただひとつ、現代の社会において、環境というキーワードは、1980年代の助走期間を経て、1990年代後半から経済と同規模、または時として経済をも上回る頻度で語られるようになったことは伺えるであろう。

#### 4- 近頃のトピック

講演では近年の環境関連のトピックとしてバイオ燃料を取り上げた。2008年6月にOECD-FAOから発表されたAgricultural Outlook 2008～2017において今後10年間の穀物市場の価格見通しは高値基調が続くとされている。理由として、

1- バイオ燃料の生産

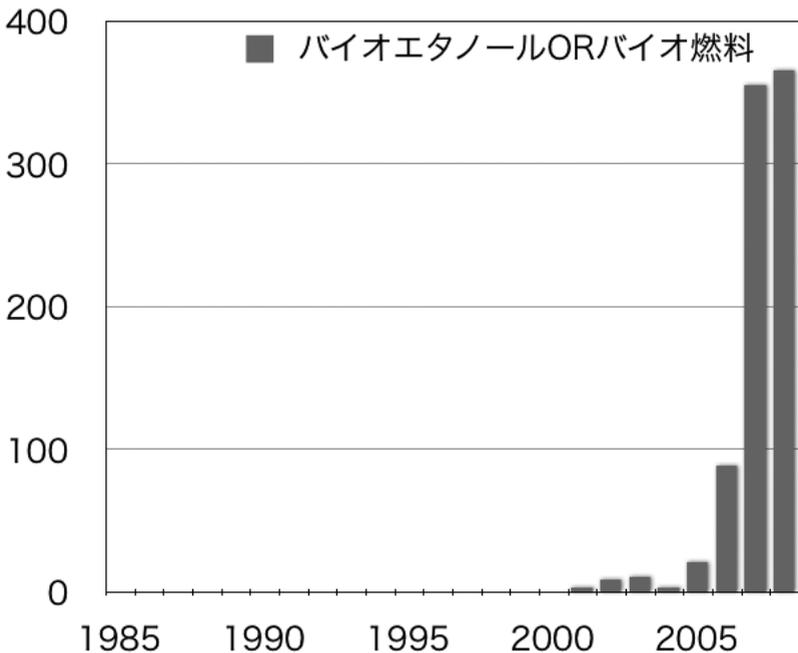
2- いわゆるBRICs諸国の経済的台頭による食生活の向上（畜肉消費の拡大）

の2点が挙げられている。

1については食物用途穀物との競合, 2については畜肉生産拡大の結果, 穀物配合飼料の消費拡大が進んでいるためとされている(牛肉を1kg生産するためには穀物ベースの配合飼料10kg必要とされている)。

これらの予備知識を踏まえ, 前述の環境や経済と同様に「バイオ燃料」および「バイオエタノール」という語について(詳しくは「バイオ燃料」, 「バイオエタノール」両語のOR検索)朝日新聞紙上への出現頻度を解析したところ, 2000年までは出現頻度が0(ゼロ)であった。ところが, 2005年以降掲載回数が増加し, 2007年は年間350回を超え, 今年2008年は5月末までに既に360回を超えている(図8参照)。

図8



バイオ燃料の功罪は、北海道洞爺湖にて開催された先進国首脳会議（サミット）の中心テーマとなる等、二酸化炭素排出削減の要請とともに、昨今の穀物価格の急騰の原因とみなされている現在、まさにホットスポットとして注目を集め始めているキーワードである事は明らかであろう。